

令和5年度 京都市立音羽中学校 学校教育目標

京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と
自らの未来を創造する子ども

重視する視点

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら
学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活
動の中で高める

学校運営方針

- ① 教育活動全般において「学びの質」を高め、学力の伸長を図る。
- ② 自律的・民主的な生徒集団を育成するために、教育活動全般において、社会とのつながり・接続を重視しながら「主体性」と「公共の精神」に基づく態度を育む。
- ③ 全教職員が「教育の質」を高めるべく自ら学び続けるとともに、持続可能な学校教育を実現するために働き方改革を推進する。

学校教育目標

自ら学び、考え、行動する生徒を育成するために「社会人基礎力」の獲得を目指す

<付記> 社会人基礎力とは

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義されている。

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



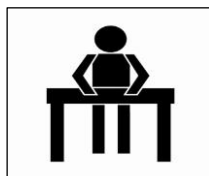
主体性
物事に進んで取り組む力

働きかけ力
他人に働きかけ巻き込む力

実行力
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



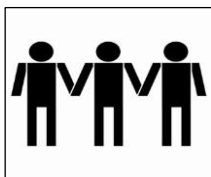
課題発見力
現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力
新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力
自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力
相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性
意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性
社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力
ストレスの発生源に対応する力

目指す生徒像

- ① **自立** 何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒 【前に踏み出す力】
- ② **思考** 自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒 【考え抜く力】
- ③ **共生** 多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力できる生徒 【チームで働く力】

令和5年度 重点目標と詳細

① 学力向上

- 個に応じた学習課題を設定し、生きてはたらく「基礎的・基本的な知識、技能」の確実な習得を図る。(単元テスト、補充学習)
- 自律的思考やアウトプットを重視した授業への改善を図る。(ホワイトボードの活用、グループ学習の設定と個別評価の検討)
- 家庭学習の習慣化と日々の授業との連動を図る。(TOWAノートの活用と振り返りの重視)
- 基盤的ツールとしての ICT 機器の活用を推進し情報活用能力の習得を図る。(情報活用能力アドバンスシート参照)
- 学習に困りを抱える生徒に焦点を当てた学習環境整備を図る。(ユニバーサルデザイン)
- 9年間を見通した学習指導を行うことができるように小中連携をさらに推進する。
- 脳や身体の良い発達を促すため、食教育を推進し食に関する意識を高め食生活(食習慣・食内容)の改善を図る。

② 民主的・自律的な集団の育成

- 生徒指導提要の改定に伴い、生徒会を中心に「校則」の見直しを行うなど自己決定の場を設定し、生徒集団の主体性を伸長する。(不易と流行、社会に照らす)
- 人権感覚の伸長により自他を大切にする教室文化の醸成を図る。(系統的な人権学習の実施)
- 公共の精神に基づいた態度を育成し安全・安心な学校文化を構築する。(凡事徹底)
- 立場や違いの理解をはかり、観念や概念の柔軟性を育くむ。(育成学級等との交流の推進)

③ 働き方改革の推進 超過勤務月 45 時間以内の達成に向けて(令和6年度末)

- 超過勤務 80 時間を超える教職員をゼロにすることを数値目標とする。
- 教育活動を勤務時間内に収めることを基本とし、時程や取組の見直しを行う。
(勤務時間 8時30分～17時00分)
- 事務業務の効率化を推進する。
- 教育活動を組織的に実施するため、実施計画の策定と取組意図や内容の共有を徹底する。

○ は継続しての取組 ● は新規の取組